



LEICA MP

取扱説明書

はじめに

ユーザーの皆様

私たちは新しいLeica MPがユーザーの皆様の写真撮影に、多くの喜びと多くの成果をもたらすことを願っています。このカメラの機能を最大限活用していただくために、まずこの取扱説明書をよくお読みください。Leica MPに関するすべての情報はいつでも以下のウェブサイトでご覧いただけます。

<https://leica-camera.com>。

Leica Camera AG

納品範囲

カメラをご利用になる前に、以下の付属品がすべて納品されているか必ずご確認ください*。

- Leica MP
- カメラレンズマウントキャップ
- キャリングストラップ
- クイックガイド
- 冊子 (Leica アカウント)
- 検査証明書

* 製品のデザインや仕様は変更される場合があります。

スペアパーツ/アクセサリ

カメラのスペアパーツ/アクセサリに関する最新情報については、Leicaカスタマーケアにお問い合わせいただくか、Leica Camera AGのウェブサイトをご覧ください。

<https://leica-camera.com/ja-JP/photography/accessories>

カメラをご使用になる前に、本製品の損傷を防ぎ、ユーザーに起こりうる怪我やリスクを防ぐために、「法律に関する注意事項」、「安全に関する注意事項」、および「一般的な注意事項」の章をお読みください。

カメラに使用できるアクセサリは本取扱説明書に記載されている商品、もしくはLeica Camera AGによって記載され説明されている商品に限られます。これらのアクセサリは本製品のみにご使用ください。他メーカーのアクセサリを使用すると、誤作動や場合によっては故障や損傷の原因となることがありますのでご注意ください。

法律に関する注意事項

著作権に関する注意事項

- 著作権法については慎重にご注意ください。たとえばテープ、CDその他の出版物または放送物のよう
な、ご自身で以前に録音したメディアを録音または
公開すると、著作権法に抵触する場合があります。
これは付属するすべてのソフトウェアにも適用され
ます。

本取扱説明書をめぐる法律に関する注意事項

著作権

無断複写・転載を禁じます。

すべてのテキスト、画像、グラフィックは、著作権および知的財産権保護のためのその他の法律の対象となります。営利目的または頒布目的での複製、改変、使用を禁じます。

技術データ

製品およびサービスは、編集の終了後になって変更される場合があります。製造者は、Leica Camera AG の利益を考慮したうえで、変更または逸脱が顧客のために合理的なものである場合に限り、納品期間内に構造または形状の変更、色の逸脱、および納品範囲またはサービスの変更を行う権利を留保します。上記の場合に限り、Leica Camera AG は、変更の権利および誤記の権利を留保します。標準的な納品範囲またはサービス範囲には含まれない付属品、特別な機器、またはその他の機能が図示されている場合もあり得ます。個々のページには、個々の国では提供されていないタイプやサービスが記載されている場合もあり得ます。

ブランドおよびロゴ

本説明書で使用されているブランドおよびロゴは保護された商標です。Leica Camera AG による事前の同意なしに、これらのブランドまたはロゴを使用することはできません。

ライセンス権

Leica Camera AGは、革新的で有益なドキュメントを提供いたします。ただし、独創的なデザインのために、Leica Camera AGは特許、商標、著作権を含む自社の知的財産を保護する必要があり、本説明書はLeica Camera AGの知的財産に対するライセンス権を決して付与するものではありませんので、ご理解をいただけますようお願いいたします。

規制に関する注意事項

カメラの製造日は保証書カードのステッカー、もしくはパッケージに貼付されています。

表示形式は年/月/日です。

CEマーク

弊社製品に貼付されているCEマークにより、EU指令の基本要件に適合していることを示しています。

電気・電子機器の廃棄について

(EU諸国および分別廃棄を実施するその他のヨーロッパ諸国のみに適用。)



この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住いの自治体が用意したリサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。

回収は無料となっています。電池やバッテリーを使用する装置を廃棄する場合は、電池やバッテリーを取り外してから回収場所にお持ちいただくか、必要に応じてお住いの自治体の規則に従って廃棄してください。廃棄についての詳しい情報は、お住いの自治体の行政担当者、お近くの廃棄業者またはご購入店にお問い合わせください。

安全に関する注意事項

一般的な取り扱いについて

- 小さな付属品を保管するときは、次の点にお気をつけください：
 - 乳幼児の手の届くところに置かない。
 - 製品パッケージの所定の位置など、紛失しない場所に保管する。
- 電子機器は、人体に帯電した静電気の影響で不具合を起こす場合があります。例えば人が合成繊維のカーペットの上を歩くと人体に容易に10,000ボルトを超える静電気が帯電するため、導電性があるものの上にカメラが置かれている場合、カメラに触れると放電が起こる可能性があります。静電気が電子回路内に入らなければ、問題ありません。本製品は安全回路を装備していますが、安全のためホットシューなどの端子部には手を触れないでください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をご使用ください。レンズ用のマイクロファイバークロス（合成繊維）は使用しないでください。お手入れの前には、水道管（接地してある導電性材料）などに触れて静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、レンズキャップやホットシューカバーを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定されたアクセサリ以外は使用しないでください。故障、ショート、感電の原因になります。
- 本製品を分解・改造しないでください。修理は、ライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、（洗浄用）ベンジン、シンナー、アルコールも使用しないでください。薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面のコーティングが剥離することがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触させたままにしないでください。

- 雨や雪の中、または浜辺などで使用するときには、内部に水滴や砂、ほこりなどが入り込まないようにお気をつけください。レンズ交換の際やフィルムを出し入れる際には特にお気をつけください。砂やほこりは、カメラやレンズに損傷を与えるおそれがあります。水滴が入り込むと故障の原因となり、修復不可能な損傷を与える場合さえあります。

レンズ

- レンズの正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーベと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により内部が破損しますので、レンズを保護せずに強い太陽光に向けたまま放置しないでください。
- レンズキャップを着着し、日陰（または理想的には鞆の中）に保管すると、カメラ内部の損傷を防ぐことができます。

バッテリー

- バッテリーを不適切に使用する、意図しない種類のバッテリーを使用すると、特定の状況下で爆発を引き起こす可能性があります！
- バッテリーを長時間日光、熱、湿気、水分にさらさないでください。また、バッテリーを電子レンジや高圧容器に入れないでください。破裂や発火の原因になります！
- 破損したバッテリーを使用すると、カメラが故障するおそれがあります。
- バッテリーの使用途中や充電中に、異臭、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気がついた場合は、カメラから直ちに取出してください。そのままバッテリーを使用し続けると過熱して、発火や爆発の原因となります！
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。爆発の原因となります。
- バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液に引火するおそれがあります！

- ・バッテリーは子どもの手の届かないところに保管してください。バッテリーを誤って飲み込んでしまった場合、窒息のおそれがあります。バッテリーを飲み込むと、深刻な内蔵の損傷や死に至るおそれがあります。
- ・子どもがボタン電池を飲み込んでしまったと思われる場合は、直ちに救急車を呼んでください。
- ・本製品を定期的に点検し、バッテリーカバーが適切に固定されていることを確認してください。バッテリーカバーが十分に固定されていない場合は、本製品を使用しないでください。
- ・使用済みバッテリーは、直ちに子どもの手の届かない安全な場所に廃棄してください。バッテリーは、デバイスを作動できなくなった後も、依然として危険な場合があります。

応急処置

- ・バッテリー液が目に入ると失明の原因となることがあります。直ちにきれいな水で目をよく洗い流してください。目をこすらないでください。直ちに医師の診察を受けてください。
- ・液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に傷害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。

キャリングストラップ

- ・キャリングストラップは丈夫な材質によって作られています。子どもの手の届かないところに保管してください。キャリングストラップは玩具ではありません。首に巻きつくなど、事故につながるおそれがあります。
- ・キャリングストラップは、カメラまたは双眼鏡を持ち運ぶ目的でのみご使用ください。傷害の原因となる可能性があるため、他の用途では絶対に使用しないでください。
- ・引っかかる危険が特に高いスポーツをする場合（例：登山や同様のアウトドアスポーツ）、カメラもしくは双眼鏡のキャリングストラップを使用しないでください。

三脚

- ・三脚を使用する際はしっかりと安定性を確保し、カメラ本体を回すのではなく、三脚の位置を調整することでカメラを回転させてください。三脚を使用する際は、三脚のねじを締めすぎたり、無理な力を加えたりしないようご注意ください。三脚に装着した状態でカメラを持ち運ぶことは避けてください。怪我やカメラの損傷の原因になります。

フラッシュ

- ・Leica MPと互換性のないフラッシュユニットを使用すると、最悪の場合はカメラやフラッシュユニットに修復不可能な損傷を与える可能性があります。

一般的な注意事項

トラブルが発生した場合の必要な処置については、「お手入れ/保管」をご覧ください。

カメラ/レンズ

- カメラとレンズを紛失した際、カメラとレンズのシリアル番号が必要になりますので必ず控えておくようお願いいたします。
- カメラのシリアル番号は、モデルによって異なりますがホットシューまたはカメラの底面に刻印されています。
- カメラの内部にほこりなどが入らないよう、レンズまたはカメラのレンズマウントキャップを必ず装着してください。
- 同じ理由で、レンズ交換はできるだけほこりのない環境で手早く行ってください。
- カメラレンズマウントキャップやレンズリアキャップは、装着時にほこりが付着してカメラ内部に入り込む可能性があるため、ズボンのポケットに入れないでください。

バッテリー

- 新品のバッテリーと使用済みのバッテリー、または容量の異なるバッテリーや異なるメーカーのバッテリーは、一緒に使用しないでください。
- 長期間カメラを使用しない場合は、バッテリーを外してください。
- 不良バッテリーは地域の規則に従い、リサイクルされるよう適切な回収場所に廃棄してください。
- バッテリー表面の酸化により回路が遮断され、LEDが消えることがあります。この場合はバッテリーを外し、清潔な布でクリーニングしてください。必要に応じてカメラの接点もクリーニングする必要があります。

フィルム

- ISO感度設定ダイヤルでフィルムのISO感度が正しく設定されているか確認してください。
- 露光したフィルムを直接現像してください。

保証

販売店に対するお客様の法律に基づく保証の請求権と共に、本Leica製品について製品保証がLeica Camera AGによって追加されて、Leica正規販売店でお買い上げいただいた日から発生します。以前、保証規約／保証書は付属品として製品に同梱されていましたが、この度、オンラインでの提供サービスが開始されました。これにより、いつでも簡単に保証内容等の確認ができます。このオンラインサービスは、保証規約／保証書が付属品として同梱されていない製品にのみ有効です。保証規約／保証書が製品に同梱されている場合は、それらが適用されます。保証条件が同梱されている製品については、これらの条件が引き続き適用されます。保証の適用範囲、保証内容、制限事項に関して詳しくは、以下のウェブサイトにてご確認ください。

<https://warranty.leica-camera.com>

目次

はじめに	2	カメラの操作	22
納品範囲	2	操作エレメント	22
スベアパーツ/アクセサリ	3	シャッターボタン	22
法律に関する注意事項	4	シャッタースピード設定ダイヤル	23
安全に関する注意事項	6	ISO感度設定ダイヤル	23
一般的な注意事項	8	フィルム巻き上げレバー	24
目次	10	巻き戻しボタン	24
各部の名称	12	巻き戻しリリースレバー	25
表示	14	フレームセクター	25
ファインダー	14	フィルムの交換	26
準備	16	カメラを開ける/閉じる	26
キャリングストラップの取付	16	開ける	26
バッテリーの挿入/取り外し	16	閉じる	27
レンズ	17	シャッターのチャージ	27
対応レンズ	17	フィルムの巻き戻し	28
限定対応レンズ	18	フィルムの取り出し	28
非対応レンズ	18	フィルムの装填	29
レンズの交換	19	一コマ目への送り	30
LEICA Mレンズ	19		
視度調整	20		

写真撮影.....	32
ISO感度	32
変換 ISO/ASA/DIN.....	33
構図.....	34
撮影範囲（ブライトフレーム）	34
別の撮影範囲/焦点距離の表示	35
ピント合わせ（フォーカシング）.....	36
二重像合致式.....	36
スプリットイメージ方式.....	36
露出	37
測光方式.....	37
測光モード.....	38
露出設定.....	38
露出レベル.....	38
厳しい撮影状況.....	39
明るすぎる、または暗すぎる被写体	39
コントラスト範囲が非常に広い被写体.....	39
長時間露光（バルブ）	40
フラッシュ撮影.....	40
互換性のあるフラッシュユニット	40
フラッシュユニットの接続	41
アクセサリシューでフラッシュユニットを接続	41
お手入れ/保管	42
FAQ.....	44
技術データ.....	46
LEICA MP.....	47
LEICAカスタマーケア	50
LEICAアカデミー.....	51

本取扱説明書に記載されている情報の各カテゴリの意味

**注意事項
追加情報**

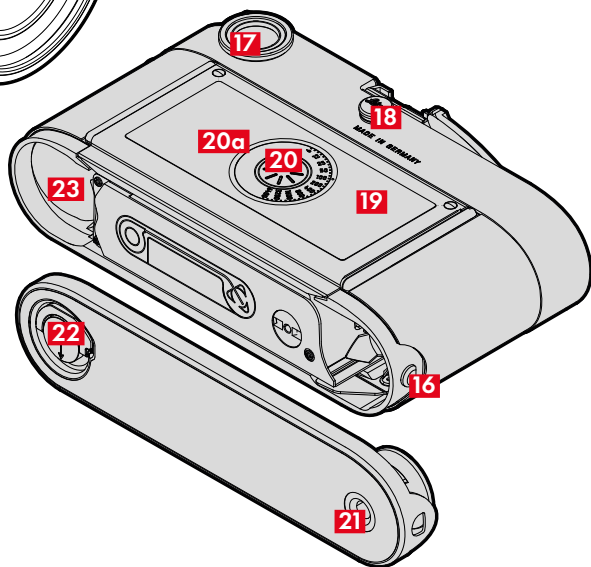
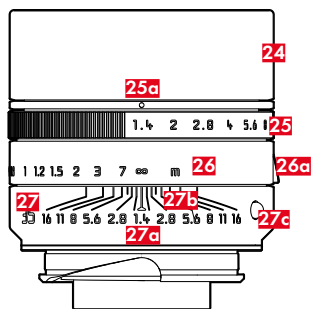
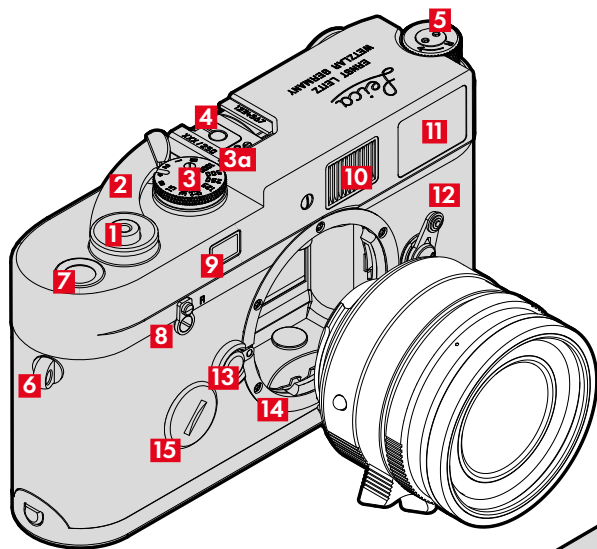
重要

この注意情報を守らないと、カメラ、アクセサリ、または撮影記録の損傷につながる場合があります

注意

この注意情報を守らないと、ケガをする場合があります

各部の名称



LEICA MP

- 1 シャッターボタン
- 2 フィルム巻き上げレバー
- 3 シャッタースピード設定ダイヤル
 - 1000 - 1: 固定シャッタースピード:
1/1000秒~1秒
 - B: 長時間露光 (バルブ)、測光モードをオフに
する (=オフポジション)
- a シャッタースピード設定ダイヤル用のインデックス
- 4 アクセサリーシュー
- 5 巻き戻しボタン
- 6 ストラップ取り付け部
- 7 フレームカウンター
- 8 巻き戻しリリースレバー
- 9 距離計窓
- 10 ブライトフレーム用イルミネーション・ウィンドウ
- 11 ファインダーウィンドウ
- 12 フレームセクター
- 13 レンズ着脱ボタン
- 14 Leica Mマウント
- 15 バッテリー・コンパートメント・カバー付きのバッテリー・コンパートメント
- 16 ベースカバーの保持点
- 17 ファインダーアイピース
- 18 ケーブル接続付きのフラッシュユニット用コンタクトソケット
- 19 リアパネル (ヒンジ式)
- 20 ISO感度設定ダイヤル
- a スケール
- 21 三脚用ねじ穴 A 1/4、DIN 4503 (1/4")

- 22 ベースカバー用のロックングトグル
- 23 フィルム室

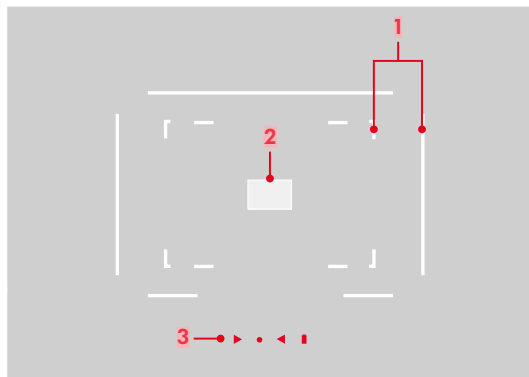
レンズ*

- 24 レンズフード
- 25 目盛付き絞り調整リング
 - a 絞り値インデックス
- 26 測距
 - a フィンガーグリップ
- 27 固定リング
 - a 測距インデックス
 - b 被写界深度目盛
 - c レンズ交換用インデックスボタン

*納品範囲に含まれていません。象徴的なイラストです。
技術仕様は機器によって異なる場合があります。

表示

ファインダー



1 ブライトフレーム (例: 50 mm + 75 mm)

2 ピント合わせ用測距枠

3 LED表示



- 露出補正のための露出レベル
- 三角形のLEDは露出を補正するための絞りリング/シャッタースピードダイヤルを回す方向を示します。
- 測定範囲アンダーシュート警告 (左三角LED点滅)



- バッテリーLED

バッテリー警告表示

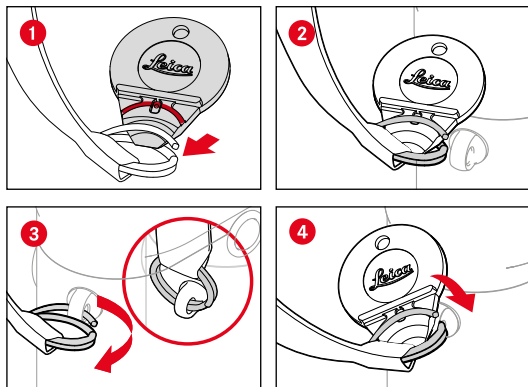
シャッターボタンを長押しすると、ファインダー内のバッテリー警告表示にバッテリーの充電状態が表示されます。

表示	充電状態
	露出レベルのみ表示。 バッテリーの充電状態良好。
	露出レベルに加えてバッテリーLEDが点灯。 すぐにバッテリーを交換してください。ただし正確な測光モードは引き続き確保されています。
	バッテリーLEDのみ点灯（または何も表示されません）。 バッテリーを交換してください。

準備

カメラをご使用になる前に、本製品の損傷を防ぎ、ユーザーに起こりうる怪我やリスクを防ぐために、「法律に関する注意事項」、「安全に関する注意事項」、および「一般的な注意事項」の章をお読みください。

キャリングストラップの取付

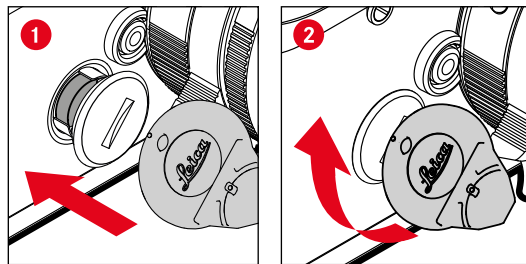


注意

- カメラの落下を防ぐため、キャリングストラップがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

バッテリーの挿入/取り外し

Leica MPの測光には、酸化銀ボタン電池2個 (PX76/SR44) またはリチウム電池1個 (DL1/3N) が必要です。



- バッテリー室カバーを反時計回りに回します
 - 使用される国によってはバッテリー室カバーの開閉に工具（マイナスドライバー、コインなど）が必要な場合があります。
- バッテリーをプラス極を上に向けてバッテリー室カバーに挿入するか、バッテリーカバーから取り外します (図2)。
 - バッテリーに酸化残留物がある場合は、事前に除去してください。
- バッテリー室カバーをバッテリーケースにまっすぐにはめます
- バッテリー室カバーを時計まわりで締めます

注意事項

- バッテリー室カバーを閉める際は、十分に締まっていることを確認してください。

レンズ

対応レンズ

LEICA Mレンズ

ほとんどのLeica Mレンズは、レンズ構成（レンズマウントの6ビットコードの有無）に関係なく使用できます。

例外や制限の詳細については、以下のセクションを参照してください。

注意事項

- ・ライカMレンズには設定した距離を機械的にカメラに伝える制御カムが装備されているため、Leica Mカメラのレンジファインダーでマニュアルフォーカスすることができます。レンジファインダーをハイスピードレンズ（ ≤ 1.4 ）と併用する場合は、以下の条件を守ってください。
 - － すべてのカメラとレンズのフォーカス機能は、ヴェッツラーにあるLeica Camera AG の工場で、一点一点最大限の精度で調整されています。極めて精密な公差が維持されているため、写真撮影の際、カメラとレンズのどんな組み合わせでも正確なフォーカスが可能です。
 - － しかし開放絞りでハイスピードレンズ（ ≤ 1.4 ）を使用した場合、レンジファインダーでピントを合わせる際に一部被写界深度が極端に浅かったり不正確だったりするため、カメラとレンズの（追加された）全公差が設定エラーをもたらす可能性があります。したがって、こうしたケースを厳密に見た場合、特定のカメラとレンズの組み合わせがシステムティックな偏差を示す可能性は排除できません。

- － 写真撮影の際、もしピント位置が特定の方向に大きくずれる場合は、LEICAカスタマーケアにてレンズとカメラの点検をお受けすることをお勧めします。カスタマーケアでは両方の製品が許容の全公差内で調整されていることを再度確認していただくことができます。ただしカメラとレンズの組み合わせによっては、ピント位置を100%調整することはできませんのでご了承ください。

LEICA Rレンズ（アダプター使用）

Leica Mレンズに加えて、アクセサリとして用意されているLeica RアダプターMを使用して、Leica Rレンズも使用することができます。このアクセサリの詳細については、Leica Camera AGのウェブサイトをご覧ください。

限定対応レンズ

対応可能、しかしカメラもしくはレンズ損傷の危険

- 沈胴式レンズ は、伸ばした状態でのみ使用してください。つまり、どんな場合でもレンズをカメラ内に沈胴しないでください。しかし最新の Makro-Elmar-M 1:4/90 には当てはまりません。これは沈胴時でもカメラ内に突出しないため、制限なく使用することができます。
- より重いレンズを三脚に取り付けたカメラで使用する場合、例えば Noctilux 1: 0.95/50 またはアダプター装着 Leica R レンズの場合: 特にカメラを手を持たない場合は、三脚のヘッドの傾きが勝手に変わらないことを必ず確認してください。確認を怠ると三脚が突然傾き、カメラのレンズマウントが破損するおそれがあります。同じ理由から、三脚マウントには常に適切なレンズを装着して使用してください。

対応可能、だが正確なピント合わせに限界

- カメラのレンジファインダーを使用する場合、その精度にもかかわらず、被写界深度が非常に浅いため 135 mm レンズの開放絞りで正確なピント合わせは保証できません。そのため少なくとも2段階絞ることをお勧めします。その一方で、Live View モードと様々な補助機能により、これらのレンズを制限なく使用することができます。

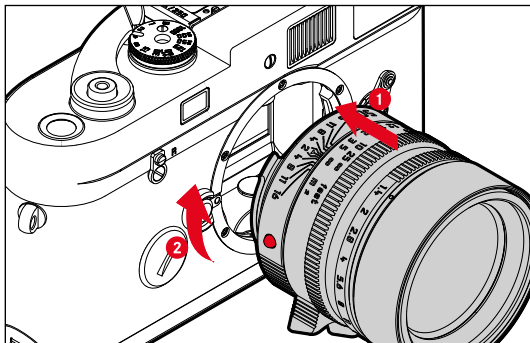
非対応レンズ

- Hologon 1:8/15
- Summicron 1:2/50 接写フォーカス
- Elmar 1:4/90 沈胴式 (製造時期 1954-1968)
- Summilux-M 1:1.4/35 (非球面、製造時期 1961-1995、カナダ製) の一部は、カメラに取り付けることができないか、無限遠に焦点を合わせることができません。Leica カスタマーケアにご依頼いただければ、これらのレンズをこのカメラでも使用できるよう調整いたします。

レンズの交換

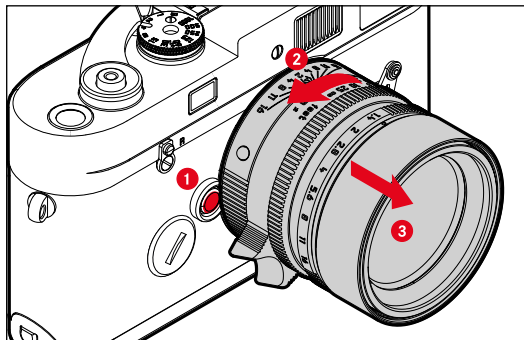
LEICA Mレンズ

取り付け



- 固定リングでレンズを固定します
- レンズのインデックスボタンをカメラ本体のリリースボタンに合わせます
- この位置でレンズをまっすぐ取り付けます
- カチッと音がして、嵌ったことが感じられるまでレンズを時計回りに回します

取り外し



- 固定リングでレンズを固定します
- カメラ本体のリリースボタンを押したままにします
- レンズのインデックスボタンがリリースボタンの反対にくるまでレンズを反時計回りに回します
- レンズをまっすぐ取り外します

重要

- カメラの内部にほこりなどが入らないよう、レンズまたはカメラのレンズマウントキャップを必ず装着してください。
- 同じ理由で、レンズ交換はできるだけほこりのない環境で手早く行ってください。
- 直射日光が当たるとシャッターから光が入る可能性があるため、フィルムを装填する際は自分の体の陰でレンズ交換を行ってください。

視度調整

眼鏡をかけている人が眼鏡なしで本製品を使用できるように、±3ディオプターの視力障害を埋め合わせるよう視度調整することが可能です。

これにはレンジファインダーに別売のLeica補正レンズを装着する必要があります。

<https://store.leica-camera.com>

- 補正レンズをファインダーアイピースにまっすぐ取り付けます
- 時計まわりにねじ込みます

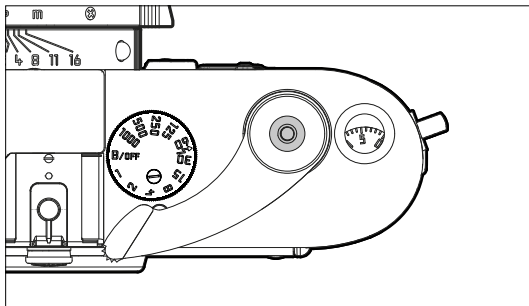
注意事項

- 補正レンズの選択に関する詳細はLeicaのウェブサイトを参照してください。
- Leica MPのファインダーは標準で-0.5ディオプターに設定されています。したがって、1ディオプターのメガネをかけている場合は、+1.5ディオプターの補正レンズが必要となります。

カメラの操作

操作エレメント

シャッターボタン



シャッターボタンは二段階で作動します。

半押し (=1つ目のプッシュポイントまで押す)

- 露出計が作動します
- 露出レベルが表示されます
- バッテリー警告表示が表示されます

注意事項

- 測光モードが作動するにはシャッターがチャージされ、バッテリーの充電状態が十分である必要があります。
- シャッターボタンを離した後、約14秒間、測光モードとファインダー内の露出レベルの表示は作動をつづけます。

全押し

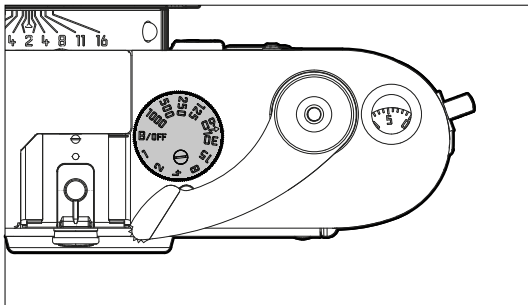
- シャッターを切る

注意事項

- 手ブレを防ぐためシャッターボタンは、カシャと音が出てシャッターがリリースされるまで、静かにゆっくり押ししてください。
- シャッターがチャージされていない場合は、シャッターボタンはロックされたままです。
- シャッターボタンはケーブル・リリース用標準ねじを装備しています。

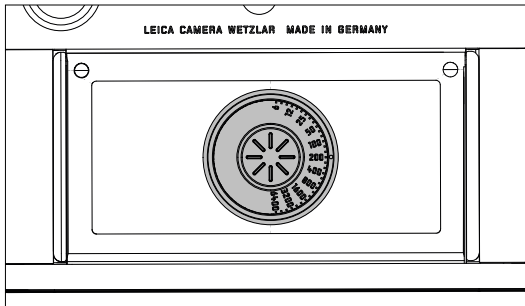
シャッタースピード設定ダイヤル

シャッタースピード設定ダイヤルは、1000 と B/OFF の間で停止します。刻印されているすべての位置でロックされます。ロックする所定の位置以外では使用しないでください。



ISO感度設定ダイヤル

ISO感度設定ダイヤルで、使用するフィルムのフィルム感度にカメラを 設定します。ロック式ISO感度設定ダイヤルに刻印されている値を使用します。使用可能なフィルム感度はISO値で示されます。



- 1000 - 1: 固定シャッタースピード: 1/1000秒~1秒
- B/OFF: 長時間露光 (バルブ)、露出計をオフ
- 1/50: フラッシュの最短同調速度 (1/50秒)

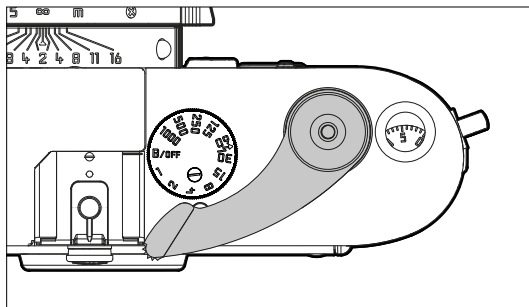
- 6 ~ 6400: 固定ISO値

注意事項

- バッグなどに入れて持ち運ぶときや、長時間カメラを使用しない場合は、シャッタースピードダイヤルを B/OFF に設定してください。これにより露出計が誤って作動するのを防ぎ、バッテリーを節約することができます。

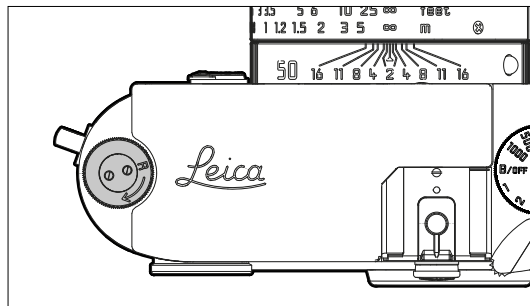
フィルム巻き上げレバー

フィルム巻き上げレバーを回すとフィルムが送られ、シャッターがチャージされ、フレームカウンターが自動的に進みます。



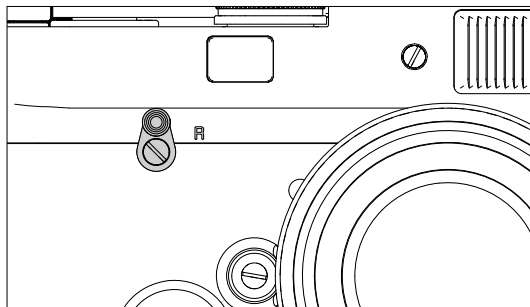
巻き戻しボタン

最後のフィルムを撮影した後、巻き戻しボタンでフィルムをフィルムカートリッジに巻き戻します。



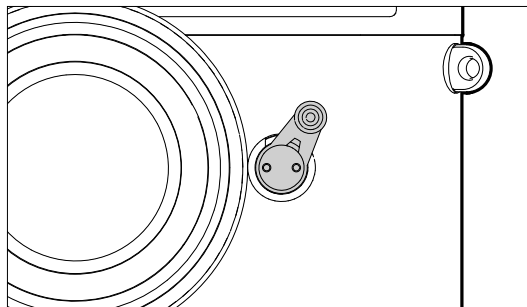
巻き戻しリリースレバー

巻き戻しリリースレバーは、フィルムが誤って巻き戻されるのを防ぎます。



フレームセクター

フレームセクターを操作している間、ファインダーに別ブライツフレームが表示されます。



フィルムの交換

シャッターがチャージされなくなった時点でフィルムは完全に露光されているので、交換してください。

フィルムを交換するには

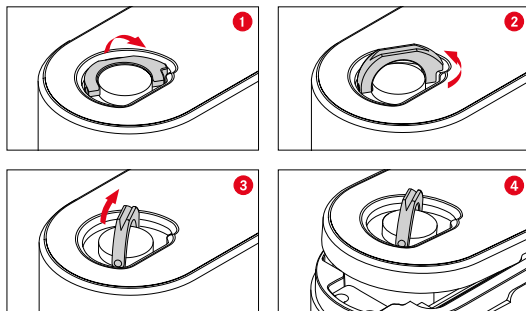
- 露光フィルムを巻き戻します (28ページ参照)
- 露光フィルムを取り出します (28ページ参照)
- 新しいフィルムを装填します (29ページ参照)
- 新しいフィルムを最初のコマまで送ります (30ページ参照)

重要

- 取り出す前にフィルムを完全にフィルムカートリッジ内に巻き戻してください。巻き戻していない場合、周囲の光によりフィルムの一部が使用できなくなります。

カメラを開ける/閉じる

開ける

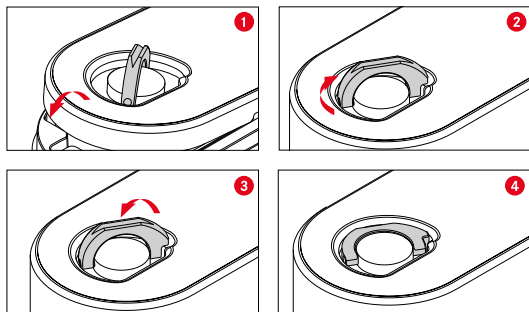


- カメラの底部を上に向けて保持します
- ロッキングトグルを持ち上げます
- ロッキングトグルを反時計回りに回します
- ベースカバーを外します
- リアパネルを開けます

注意事項

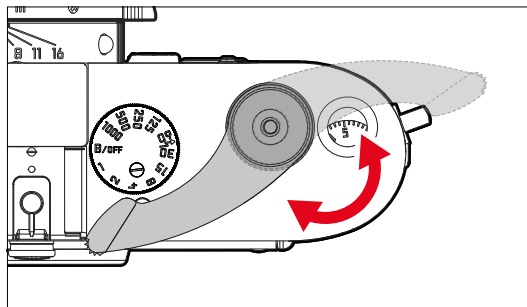
- ベースカバーを開けると、フレームカウンターは自動的にゼロにリセットされます。

閉じる



- カメラの底部を上に向けて保持します
- リアパネルを閉じます
- ベースカバーをカメラ側面の固定ピンに引っ掛け
ます
- ベースカバーを閉じます
- このときリアパネルは完全に押し込まれていて、ベ
ースカバーで囲まれていなければなりません。
- ロッキングトグルを時計回りに回します
- ロッキングトグルをセットします
- ベースカバーが正しく取り付けられていることを確
認してください

シャッターのチャージ



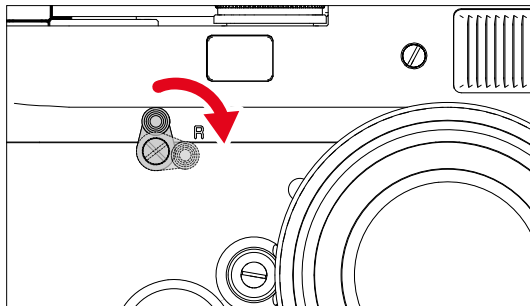
シャッターをチャージするには

- フィルム巻き上げレバーを停まるまで押します
あるいは
- フィルム巻き上げレバーを停まるまで数回押します

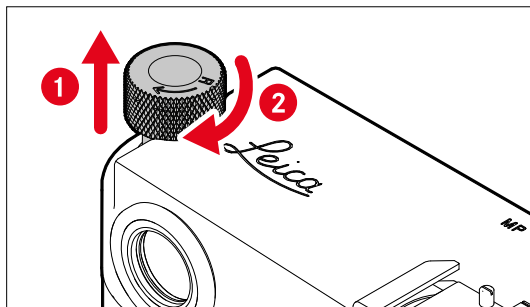
注意事項

- フィルム巻き上げレバーを使用しないときは、真
ん中に向かって折りたたむことができます。
- シャッターがチャージされると、フィルムが装填され
ていなくてもフレームカウンターは進みます。

フィルムの巻き戻し

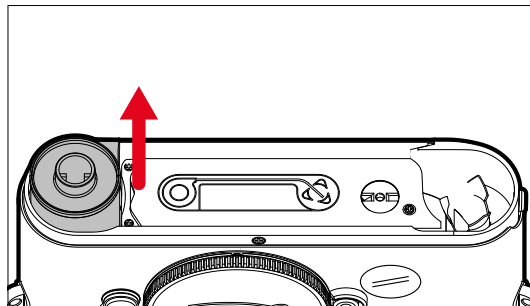


→ 巻き戻しリリースレバーを R の位置に回します



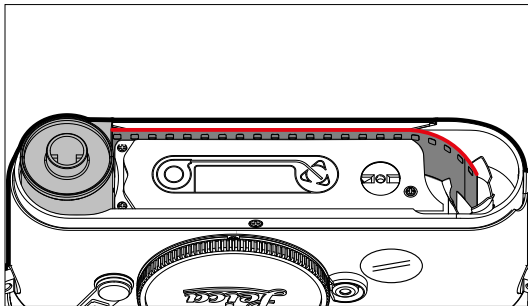
- 巻き戻しボタンを押し上げます
- 巻き戻しボタンを時計回りに回します
 - 少し抵抗を感じたのちにさらに回すと、フィルムが巻き取りリールから引き出されます。
- 巻き戻しボタンをさらに数回回します
- 巻き戻しボタンを押し下げます
- 巻き戻しリリースレバーを垂直の位置に戻します

フィルムの取り出し



- カメラの底部を上に向けて保持します
- カメラを開きます (26ページ参照)
- フィルムカートリッジをまっすぐに引き抜きます
- フィルムカートリッジは冷暗所に保管してください

フィルムの装填



- カメラの底部を上に向けて保持します
- カメラを開きます (26ページ参照)
- フィルムカートリッジを、凹みに半分ほど挿入します
- フィルムの先端部を手に取り、カメラの反対側にある巻き取りスプールに引き込みます
 - 内側ハウジングの底部にある概略図に適切な終了位置が表示されています。
- フィルムカートリッジとフィルムの先端部を指先で慎重に押し込みます
- カメラを閉じます (27ページ参照)

重要

- ベースカバーはカメラに嵌めるとフィルムが正しい位置に装填されるよう設計されています。カメラを開けた状態でフィルム送りを確認しないでください。
- フィルムの感度設定を転送するための接点は、リアパネルの内側とカメラハウジングの対応するポイントにあります。接点は粗大な汚染物や水と直接接触することのないよう保護してください。

注意事項

- フィルムの先端部は、通常の既製フィルムと同じようにカットしてください。
- フィルムの先端部を引き出し過ぎた場合、巻き取りスプールの反対側から多少はみ出した程度であれば、機能に影響することはありません。ただし気温が氷点下になる場合は、図に従ってフィルムを装填してください。フィルムのはみ出した部分が凍って折れてしまうのを防ぐため、フィルムの先端部は巻き取りリールのスロットに必ず引っかけてください。

→コマ目への送り

- シャッターをチャージします
- リリースします
- シャッターを再度チャージします
 - 巻き戻しクランクが回転すればフィルムは正しく送られています。
- カメラを再度リリースします
- シャッターをもう一度チャージします
 - この時、フレームカウンターがコマ1を示します。
 - これでカメラの撮影準備は完了です。

写真撮影

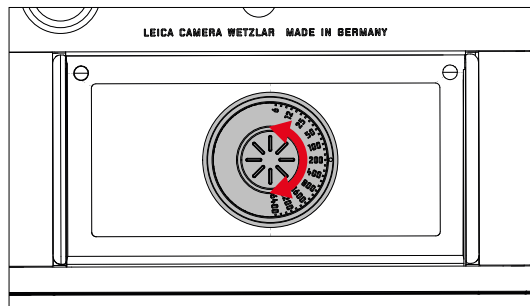
- ISO感度設定ダイヤルで設定されているフィルム感度が、装填されたフィルムのフィルム感度と一致しているか確認します。
- 必要があれば、シャッターをチャージします (27ページ参照)
- 撮影範囲を設定します (34ページ参照)
- シャッターボタンを押します
 - ・ シャッターボタンを離した後、約1秒間、測光モードとファインダー内の露出レベルの表示は作動をつづけます。
- 適正露出を決めます (38ページ参照)
 - ・ 一時的に画像セクションを変更する (中央重点測光)、または補正をかける必要がある場合があります (39ページ参照)。
- シャッタースピードと絞りの組み合わせを設定します
 - ・ ここでは適正露出に加え、被写界深度や動きの印象など、さまざまなクリエイティブな配慮が要求されます。
- 測距でピントを合わせます
 - ・ 測距点が画像の中心にあるため、一時的に画像セクションを変更する必要がある場合があります。
- 最終的な画像セクションを確定します
- レリーズします
 - ・ 測光モードが即座に終了し、ファインダー内のLED表示が消えます。

ISO感度

フィルム感度を選択する際は、想定される撮影状況や撮影意図が重要な役割を果たします。

- フィルム感度が低いと鮮明度が上がり、より粒状性の高い写真を撮ることができます。
- フィルム感度が高いと、暗い場所での撮影や速いシャッタースピードでの撮影が可能になります (スポーツ写真など)。

測光モードを正確に作動させるためにISO感度設定ダイヤルを、使用するフィルムのフィルム感度に設定します。ロック式ISO感度設定ダイヤルに刻印されている値を使用します。使用可能なフィルム感度はISO値で示されます。



变换 ISO/ASA/DIN

ISO	ASA	DIN
6	6	9°
-	8	10°
-	10	11°
12	12	12°
-	16	13°
-	20	14°
25	25	15°
-	32	16°
-	40	17°
50	50	18°
-	64	19°
-	80	20°
100	100	21°
-	125	22°
-	160	23°
200	200	24°
-	250	25°
-	320	26°
400	400	27°
-	500	28°
-	640	29°

ISO	ASA	DIN
800	800	30°
-	1000	31°
-	1250	32°
1600	1600	33°
-	2000	34°
-	2500	35°
3200	3200	36°
-	4000	37°
-	5000	38°
6400	6400	39°

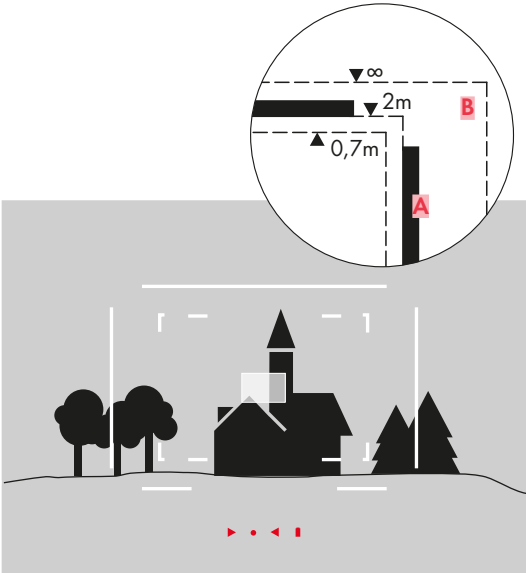
構図

撮影範囲（ブライトフレーム）

本カメラのブライトフレームレンジファインダーは特に大型で明るく見やすい高性能なファインダーであるだけでなく、レンズと連動した、極めて正確な距離計としても機能します。焦点距離16〜135 mmのすべてのLeica Mレンズは、カメラに装着すると自動的に連動します。ファインダーの倍率は0.72倍です。

ブライトフレームは測距と連動しており、視差（レンズとファインダー軸のオフセット）が自動的に補正されます。

ブライトフレームサイズは、各焦点距離の最短設定距離で約23×35 mm（スライド形式）の画像サイズに相当します。距離が2 m以下の場合、フィルムはブライトフレームの内縁が示すよりもわずかに少なく範囲を捉えますが、それ以上の距離の場合はわずかに多く捉えます（図を参照）。これらのわずかなズレは、実際にはほとんど決定的なものではありませんが、原理的な問題により生じます。ファインダーカメラのブライトフレームは、各レンズ焦点距離の写角に合わせてください。ただしフォーカシングの際、焦点距離、つまりフィルム面からの光学系の距離が変化するため、公称画角はわずかに変化します。設定距離が無限遠より小さい場合（それに応じて焦点距離も大きくなります）、実際の画角も小さくなり、レンズが被写体を捉える範囲が狭くなります。さらに焦点距離がより大きくなると画角の差も大きくなる傾向があります。



すべての画像とブライトフレームの位置は焦点距離50 mmを基準としています。

A	ブライトフレーム
B	実際のレンズフィールド
0.7 mに設定	フィルムは約1フレーム幅分縮小して撮影します。
2 mに設定	フィルムはブライトフレームの内縁により表示されるレンズフィールドを正確に捉えます。
無限遠に設定	フィルムは約1フレーム幅（垂直）または4フレーム幅（水平）の分多く捉えます。

注意事項

- ファインダーの中央には長方形の測距点があり、周囲のレンズフィールドよりも明るくなっています。距離測と測光に関する詳細については、関連セクションを参照してください。

別の撮影範囲/焦点距離の表示

焦点距離28 mm (製造番号 2 411 001 以降の Elmarit)、35、50、75、90、135 mm のレンズを使用すると、35 mm + 135 mm、50 mm + 75 mm、または 28 mm + 90 mm の組み合わせで対応するブライトフレームが自動的に点灯します。フレームセクターは適切な位置に自動的に移動します。

装着したレンズによっては、追加のブライトフレームを表示することができます。これにより、対応する焦点距離をシミュレートすることができます。これは目的の撮影場所に適したレンズを選択する際に役立ちます。

- フレームセクターを目的の位置に移動します
 - フレームセクターは撮影後自動的に戻ります。

35 mm + 135 mm



50 mm + 75 mm



28 mm + 90 mm



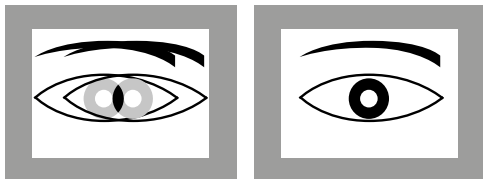
ピント合わせ (フォーカシング)

レンジファインダーでピント合わせをすることができます。

このカメラのレンジファインダーは有効測距点が大きいため、非常に正確な作業が可能です。ピントは、二重像合致式とスプリットイメージ方式で設定できます。

二重像合致式

例えばポートレートを撮影する場合、レンジファインダーの測距点で目に狙いを定め、測距点の輪郭がそろうまでレンズの測距を回します。

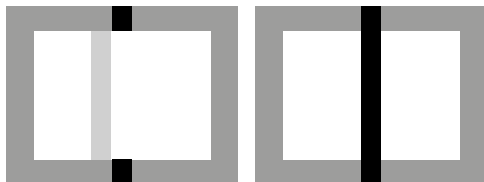


ピントが合っていない

ピントが合っている

スプリットイメージ方式

例えば建築物などを撮影する場合、レンジファインダーの測距点で垂直のエッジや明確に定義された垂直線に狙いを定め、エッジや線の輪郭がオフセットなく測距点の境界に表示されるまでレンズの測距を回します。



ピントが合っていない

ピントが合っている

注意事項

- 非常に正確な距離測定は、被写界深度が比較的深い広角レンズを使用する際には特に有利です。
- どちらの方式でも、距離計の測距点は明るく鮮明な長方形として表示されます。測距点の位置は変更できません。常にファインダー中央に表示されます。

露出

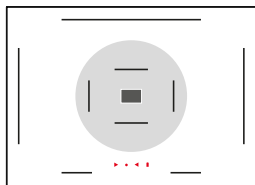
測光方式

Leica MPの測光はレンズを通して作動絞りで選択的に実行されます。最初のシャッター幕の中央にある明るい円形の測定スポットから反射された光をフォトダイオードが捉え、測定します。集光レンズを備えたこのシリコンフォトダイオードはシャッターの左上に配置されています。測光スポットの直径は12 mmです。

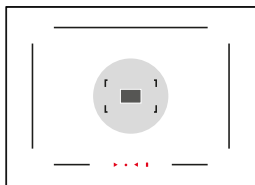
測光は中央にはっきり見えるように配置されています。画像の中心を囲む円形部分内の被写体の一部のみが考慮されます。

注意事項

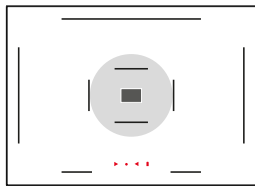
- 測定スポットのムラは、シャッターの機能を損なうことなくシャッターの柔らかいゴム引き布を厚い色膜でコーティングすることができないためです。これによって測定精度が損なわれることは一切ありません。



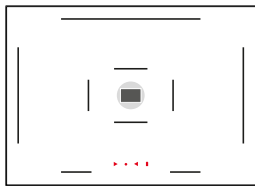
21 mm



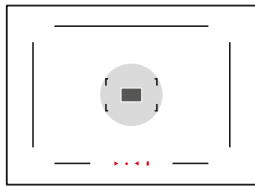
24 mm



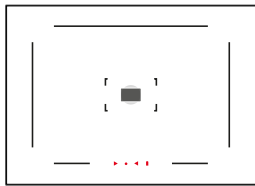
28 mm



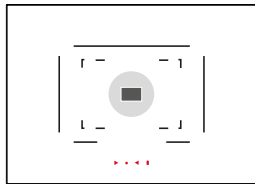
90 mm



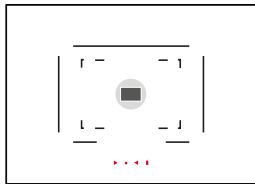
35 mm



135 mm



50 mm



75 mm

測光モード

シャッターボタンを半押しすると測光モードが起動します。ファインダー内に露出レベルが表示され、継続的に測定が行われます。シャッターボタンを離れた後、約14秒間、測光モードとファインダー内の露出レベルの表示は作動をつづけます。

注意事項

- 測光モードが作動するにはシャッターがチャージされ、バッテリーの充電状態が十分である必要があります。
- シャッタースピードダイヤルを **B/OFF** に設定すると、測光モード はオフになります。
- 測光範囲の限界（薄暗い場所）では、ファインダーの 露出レベル が表示されるまで約0.2秒かかることがあります。
- シャッターがリリースされると測光モードはすぐにオフになり、ファインダーの 露出レベル は非表示になります。

露出設定

適正露出に必要な補正は、3点の赤色LEDからなる露出レベルで表示されます。露出設定が正しい場合は、中央の丸いLEDのみが点灯します。

露出レベル

適正露出に必要なシャッタースピードダイヤルと絞りリングの回転方向に加えて、ファインダー内の露出レベルの3点LEDは、以下の方法で露出アンダー、露出オーバー、適正露出を表示します。

	露出アンダー 少なくとも1 f-ストップ
	露出アンダー 1/2f-ストップ
	適正露出
	露出オーバー 1/2f-ストップ
	露出オーバー 少なくとも1 f-ストップ

注意事項

- 測光 範囲が非常に低い輝度でアンダーになった場合、警告表示としてファインダー内左の三角形LED が点滅します▶。測光は絞りが動作することによって実行されるため、レンズを絞る際にもこの状態が発生することがあります。
- 測光範囲を超えた場合でも、シャッターボタンを放してから約14秒間は測光がオンの状態を保ちます。この間に照明条件が改善された場合（構図の変更や絞りの開放など）、LED表示が点滅から点灯に変わります。これは測定準備が完了したことを示しています。

厳しい撮影状況

明るすぎる、または暗すぎる被写体

測光モードは、通常の、つまり平均的な被写体の通常の反射率に相当する中間グレースケール（反射率18%）に合わせて調整されています。

例えば冬の雪景色、ビーチ、明るい色の家の壁の前、白いウェディングドレスなど、被写体がより多くの光を反射する場合、露出レベルに従ってシャッタースピードと絞りを設定すると、露出アンダーになります。

暗いディテールが大部分を占める被写体（黒い蒸気機関車、船長の濃紺の制服など）の場合、は対照的に今度は露出オーバーになります。



コントラスト範囲が非常に広い被写体

被写体のコントラスト範囲には、画像内の最も明るい個所から最も暗い個所までのすべての明るさのグラデーションが含まれます。明部と暗部のコントラストが非常に大きい場合、フィルムの露出範囲は、被写体の「光」と「影」の両方の明るさの違いをすべて記録するほど広くありません。「光」と「影」の測定値から得た平均的な露出値を用いても、明部と暗部それぞれの微妙な明るさの違いが失われてしまうため、通常は満足できない撮影結果になります。意図的に露出オーバーや露出アンダーにすることで写真の個性が強調される場合も少なくなく、それもひとつの表現手段として効果的に利用することもできます。

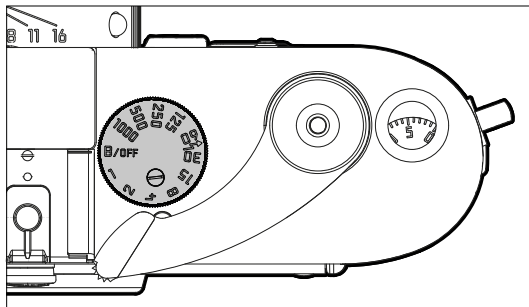


この問題に対する解決策は基本的に2つあります。

- － 可能であれば、代わりに同じ被写体の、中間程度の反射となる別の個所を測定します。
- － 測光モードで得られた値を、経験値に従って手動で補正します。

長時間露光 (バルブ)

シャッタースピードダイヤルを **B/OFF** に設定すると、シャッターボタンを押している間、シャッターはずっと開いたままになります。



→ シャッタースピードダイヤルを **B/OFF** に設定します

注意事項

- シャッタースピードダイヤルを **B/OFF** に設定すると、測光モード はオフになります。

フラッシュ撮影

Leica MPには、独自のフラッシュ測定およびフラッシュ制御機能は搭載されていません。そのためフラッシュ露出は付属のフラッシュユニット自体で制御するか（コンピュータ制御）、あるいはガイドナンバー計算に従って、被写体とカメラの撮影距離に応じて撮影ごとに絞りを手動で設定してください。

フラッシュ撮影で使えるシャッタースピードは、シャッタースピードダイヤルに **1/50** で表示されている、フラッシュ同調速度の **1/50** 秒です。

より長いシャッタースピードが可能で、自然な周囲光を取り入れることで画像効果の向上に役立ちます。

互換性のあるフラッシュユニット

標準のフラッシュシンクロ接点または中央接点を備えた市販のフラッシュユニットであれば、すべてLeica MPで使用することが可能です。最新のサイリスタ制御式電子フラッシュユニットのご使用をお勧めします。

重要

- Leica MPと互換性のないフラッシュユニットを使用すると、最悪の場合はカメラやフラッシュユニットに修復不可能な損傷を与える可能性があります。

注意事項

- フラッシュユニットが動作可能な状態でない場合、露出が不正確になることがあります。
- スタジオ用フラッシュシステムは、フラッシュ持続時間が非常に長くなる場合があります。従ってご使用の際は **1/50** 秒より遅いシャッタースピードを選択することをお勧めします。「オフカメラフラッシュ」を使用する際のリモート制御フラッシュでも同じことが当てはまります。リモート送信による時間遅延が発生する可能性があるためです。

フラッシュユニットの接続

Leica MPでは二種類のフラッシュ接続方式を選択できます。

- 上部に、標準的な底部（取り付け部）をもつすべてのフラッシュユニットに対応する中央接点を備えたアクセサリシューがあります。
- 背面（アクセサリシューの真下）に、シンクロケーブルを接続するシンクロターミナルがあります。

注意事項

- フラッシュユニットをアクセサリシューに1つ接続し、シンクロターミナルにもう1つ接続することで、2つのフラッシュユニットを同時に発光させることができます。
- フラッシュの操作、およびフラッシュユニットの各操作モードに関する詳細はそれぞれの取扱説明書をご参照ください。

アクセサリシューでフラッシュユニットを接続

フラッシュユニットの取り付け

- フラッシュユニットの電源を切ります
- フラッシュユニットの底部をアクセサリシューに差し込みます
- 必要に応じて、固定装置（ロックナット、プッシュボタンなど）をしっかりと締めます
 - 動きによってフラッシュユニットが落下したり、接点の機能が妨げられないようしっかりと固定することが重要です。

フラッシュユニットの取り外し

- フラッシュユニットの電源を切ります
- 必要に応じて、固定装置（ロックナット、プッシュボタンなど）を緩めます
- フラッシュユニットの取り外し

お手入れ/保管

長期間カメラを使用しない場合は、以下のことをお勧めします。

— シャッタースピードダイヤルを **B/OFF** に設定します

カメラハウジング

- 汚れは微生物の温床にもなるため、機器は常に清潔に保つようご注意ください。
- 本カメラは、必ず乾いた柔らかい布で清掃してください。頑固な汚れは、まず水で薄めた洗浄液で湿らせてから、乾いた布で拭き取ってください。
- もし塩水の飛沫がカメラにかかってしまった場合は、まず柔らかい布を水道水で湿らせ、よく絞ってからカメラを拭いてください。その後、乾いた布でよく拭いてください。
- 汚れや指紋を取り除くには、糸くずなどの出ないきれいな布でカメラを拭いてください。カメラ本体の手の届かない部分に付いたひどい汚れは、小さなブラシで取り除きます。その際、シャッターに触れないようご注意ください。
- 本カメラを保管する際は、埃をかぶったり擦れたりすることのないよう、できるだけ機密性の高い、クッション材の入った容器に収納してください。
- カメラは高温多湿を避け、乾燥した通気性の良い場所に保管してください。本カメラを多湿な環境で使った場合は、保管前に完全に水分を取り除くようご注意ください。
- カビの発生を防ぐため、本カメラをレザーケースに入れたまま長期間保管しないようご注意ください。
- フォトバッグが使用中に濡れた場合には、湿気や革のなめし剤の残留による機器の損傷を防ぐため、フォトバッグを空にしてください。

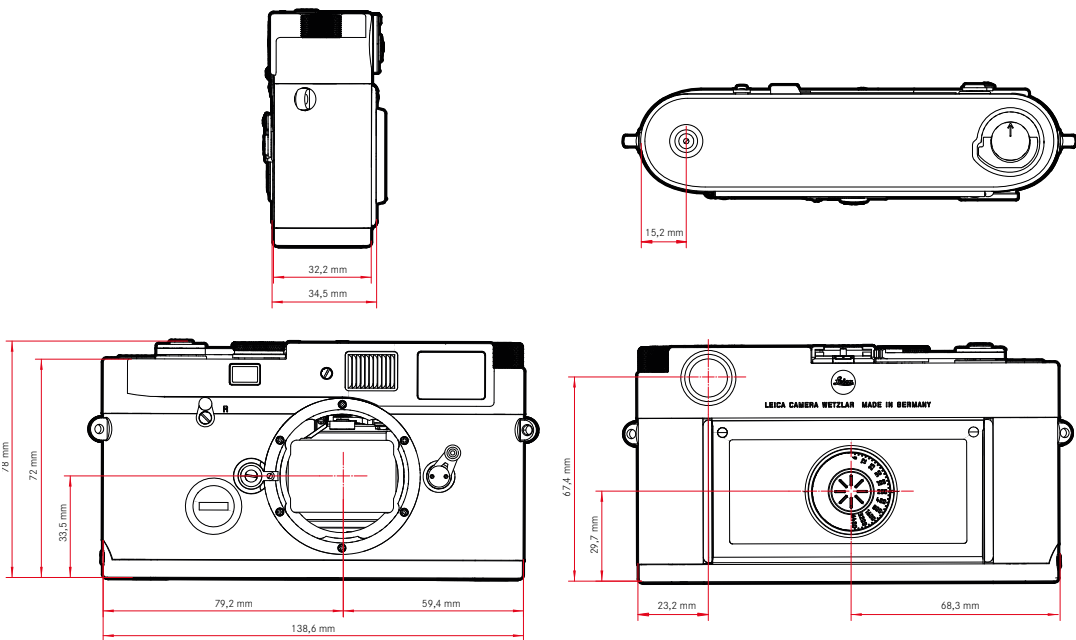
- カメラの機械的に可動なベアリングやスライド面にはすべて潤滑油が施されています。本カメラを長期間使用しない場合は、潤滑油を施した部分がべとつかないように、約3か月ごとにフィルムを装填せずに、すべてのシャッタースピードでレリーズを繰り返してください。その他すべての操作エレメントに関しても同じように繰返し動かしていただくことをお勧めします。
- 高温多湿の熱帯環境で使用する場合は、本カメラをカビの発生から守るために、できるだけ陽の光と外気に当てるようにしてください。シリカゲルなどの乾燥剤を使用する場合は、気密性の高い箱に保管することをお勧めします。
- 本カメラの表面または内部に結露が発生した場合は、電源を切り、室温で約1時間放置してください。室温とカメラの温度が同じになると、結露は自然に消滅します。

レンズ

- 外側のレンズエレメントの塵を取り除く程度であれば、柔らかい毛のブラシで充分です。ただし、さらにしつこい汚れの場合は、異物を含まない、清潔な柔らかい布を使用して、内側から外側に円を描くようにしていねいに拭き取ってください。カメラ専門店や光学機器取扱店などで購入できるマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。これはよく保護ケース等に付属しています。マイクロファイバークロスは40℃以下の水で洗濯可能ですが、柔軟剤は使用せず、アイロンはかけないでください。化学物質の染み込んだ眼鏡拭き用のクロスは、カメラのレンズを損傷する恐れがあるため使用しないでください。
- 好ましくない状況（砂浜や海岸など）での使用では、無色のUVAフィルターでレンズ前面を保護してください。ただし他のフィルター同様、逆光やコントラストの高い状況ではレンズに望ましくない反射光が発生する恐れがあるのでご注意ください。
- またレンズに指紋や雨の滴が付かないよう、レンズキャップを使用して保護してください。
- レンズの機械的に可動なベアリングやスライド面にはすべて潤滑油が施されています。レンズを長期間使用しない場合は、潤滑油を施した部分がべとつかないように、時折測距と絞リングを動かしてください。

問題	考えられる/確認すべき原因	解決策
撮影		
フラッシュが発光しない	現在の設定ではフラッシュが使用不可になっている	フラッシュ機能設定の一覧を確認
	フラッシュ充電中にシャッターを押している	フラッシュの充電が完了するまで待機
フラッシュが被写体を十分に照らさない	被写体がフラッシュ範囲外	被写体をフラッシュ範囲内に入れる
	フラッシュの光が見えない	指や物がフラッシュを邪魔していないか確認
カメラがレリーズできない/シャッターボタン無効/撮影不可	フィルムを使い切った	フィルムを交換
画像のピントが合っていない	レンズが汚れている	レンズをきれいにする
	撮影中にカメラが動いた	フラッシュを使用する
		カメラを三脚に固定する
		シャッタースピードを上げる
画像が露出オーバー	明るい場所でもフラッシュが作動する	フラッシュモードを変更する
	画像内の強い光源	画像内に強い光源が入り込まないようにする
	(半) 逆光がレンズに入る (撮影範囲外の光源からも入る)	レンズフードを使用するかあるいは被写体を変える
	露出時間が長すぎる	短い露出時間を選択する
ピントが合っていない	暗い場所でフラッシュなしで撮影している	三脚を使用する

技術データ



LEICA MP

カメラ

形式

アナログレンジファインダーカメラ (35 mm)

商品番号

10 302

材質

ヒンジ式リアパネル付きの密閉式の全金属製ハウジング

カバーキャップとベースカバー：真鍮製、シルバークローム仕上げあるいはブラックコーティング

レンズマウント

Leica Mマウント

動作環境

0°C～+40°C

インターフェース

アクセサリシュー、シンクロターミナル

三脚用ねじ穴

A 1/4 DIN 4503 (1/4") ステンレススチール製ベース

寸法 (幅×高さ×奥行)

138×77×38 mm

重量

約585g (バッテリーなし)

ファインダー

ファインダーの種類

大型で明るいブライトフレーム・レンジファインダー (自動パララックス補正機能付き)

-0.5 dptに調整

視度補正レンズは-3から3 dptまで利用可能

表示

LED表示：露出レベルとバッテリー警告表示

イメージフィールドの制限：それぞれ2つのフレームを点灯させることによる：35 mm + 135 mm、28 mm + 90 mm、50 mm + 75 mm (レンズ装着時自動切替)

別のイメージフィールド境界線/イルミネーションフレームを表示可能

パララックス補正

ファインダーとレンズの間の水平方向と垂直方向の差は、それぞれのピント合わせに応じて自動的に均等化されます。つまり、ファインダーのブライトフレームは、レンズが捉えた被写体部分と自動的に一致します。

ファインダー倍率

0.72倍 (全てのレンズ)

有効基線長

49.9 mm: 69.25 mm (機械式基線長) ×

0.72倍 (ファインダー倍率)

ファインダー像とフィルム像の一致

ブライトフレームサイズは、各焦点距離の最短設定距離で約23×35 mmの画像サイズに相当します。無限遠に設定した場合、焦点距離に応じて約9 % (28 mm) ～23 % (135 mm) のフィルムが、それぞれのブライトフレーム表示よりも多く撮影されます。

ワイドベースのレンジファインダー

ファインダー像の中央に明るい視野として示される、スプリットイメージ方式と二重像合致式のレンジファインダー

シャッター

シャッタータイプ

ゴムコーティング布幕横走りフォーカルプレーンシャッター

機械制御式、極静音

シャッタースピード

機械制御シャッター: 1秒〜1/1000秒

フラッシュ同調: 最大1/50秒

シャッターボタン

二段階式

(第1段階: 測光モードを含むカメラ電子機器の起動、第2段階: リリース)

ケーブル・リリース用標準ねじを装備

フィルム巻き上げ

巻き上げ

クイックリリースレバーまたはLeicavit Mを用いる手動式 (アクセサリとして入手可)、またはLeica Motor-M、Leica Winder-M、Leica Winder-M4-P、またはLeica Winder-M4-2を用いる電動式

巻き戻し

巻き戻しリリースレバーを **R** の位置に回した後、手動で巻き戻しボタンを 작동

フレイムカウンター

カメラ上部

ベースカバーを外すと自動リセット

ピント合わせ

撮影範囲

70cm〜無限遠

フォーカスモード

手動式

露出

測光モード

TTL (レンズによる測光モード)、作動絞り

測定セル

カメラのレンズマウントの後ろの左上に収束レンズを備えたシリコンフォトダイオード

測定原理

第1シャッター幕中央の測定スポットからの反射光の測定

測定スポットの直径: 12 mm (ネガフォーマット全面の約13 %、もしくはレンジファインダーで有効なブライトフレームの短辺の約2/3に相当)

測定範囲

ファインダー内で左三角LED点滅により、測定範囲アンダーシュートを警告

露出モード

シャッタースピード、絞りおよびISO感度の手動設定
露出レベルによる調整

フィルムの感度範囲

ISO 6/9°〜ISO 6400/39°で手動設定

フラッシュ露出コントロール

フラッシュユニットの接続

アクセサリシュー、シンクロターミナル

同期

1枚目のシャッター幕

フラッシュ同調スピード

⚡ =1/50秒; より遅いシャッタースピードも使用可能

フラッシュ測光モード

フラッシュユニットのコンピューター制御によるか、またはガイドナンバーの計算と必要な絞りの手動設定による

電源

動作電圧

3 V

バッテリー

酸化銀ボタン電池2個 (PX76/SR 44) またはリチウム電池1個 (DL1/3N)

室温で、撮影ごとに14秒間測光した場合、バッテリー寿命は36枚撮りフィルム約100本、枚数にして約3,600枚 (Leica試験規格による)

電源は測光モードとLED表示にのみ必要

ライカ カスタマーケア

お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケア、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社

カスタマーケア

東京都中央区銀座6-4-1 ライカ銀座店内

Tel.: 0570-055-844

Fax: 03-6215-7073

E-mail: info@leica-camera.co.jp

ライカカメラ本社（ドイツ）

Leica Camera AG

Leica Customer Care

Am Leitz-Park 5

35578 Wetzlar

ドイツ

Tel.: +49 6441 2080-189

Fax: +49 6441 2080-339

E-mail: customer.care@leica-camera.com

<https://leica-camera.com>

各国のカスタマーサポートセンター

お客様のお住まいの地域を担当するカスタマーケアについては、以下のホームページでご確認いただけます。

<https://leica-camera.com/ja-JP/contact>

ライカ アカデミー

ライカアカデミーでは写真撮影に役立つ各種セミナーやワークショップを開催しています。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<https://leica-camera.com/ja-JP/raikaakatemi>